様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ５ 月 ２８ 日現在

機関番号：１２１０２
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2012～2014
課題番号：２４６５９２３１

研究課題名（和文）ソーシャルファームにおける復職支援の有効性に関する調査研究

研究課題名（英文）Research on the effectiveness of the reinstatement support in social firm

研究代表者
松崎　一葉（MATSUZAKI, Ichiyo）

筑波大学・医学医療系・教授

研究者番号：１０２２９４５３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,900,000円

研究成果の概要（和文）：　我が国において、リワークプログラムに参加してもなお復職困難な者もおり、問題となっている。そこで、海外で広く行われているソーシャルファームの日本版に注目し視察を行った。
　さらにこの利用者の復職準備性について縦断的に調査を行い、客観的指標の変化を心理尺度を用いた量的研究で、また心理的な変化を質的研究にて検討した。その結果、特に認知機能の有意な改善と復職に向けての質的な心理変化を認め、日本型ソーシャルファームの利用が復職準備性の改善に寄与することが示唆され、ソーシャルファームの復職支援の場としての有用性についての可能性が見出された。

研究成果の概要（英文）：In Japan, there are still reinstate difficult persons participating in the rework program, it has become a problem. Therefore, the attention to visit we went to the Japan version of the social firms that has been performed widely abroad. Further subjected to longitudinal investigation for reinstatement preparation of this user, the changes in the objective indicator in quantitative research using a psychological measure, also was examined by qualitative research the psychological change. As a result, in particular, recognized the qualitative psychological change towards the reinstatement with a significant improvement of cognitive function, Japanese-style social firms use is suggested that contribute to the improvement of reinstatement readiness, of reinstatement support of social firms potential for usefulness as a place was found.

研究分野：産業精神医学

キーワード：ソーシャルファーム　復職支援　リワークプログラム　復職準備性　認知機能　質的研究

１．研究開始当初の背景

現在、うつ病などの精神疾患による休職者は多く、復職が困難な者も多い[1)]。労働力の損失のみならず、周囲の労働者の負荷が高まり二次的にメンタルヘルス不全となるなどの諸問題が社会に及ぼす影響は大きい。復職に際しては、医療機関において模擬的職場環境下で職場復帰のためのリハビリテーションを行うリワークプログラム（以下リワーク）がある。その有用性についての研究報告もあり[2)]徐々に普及しているが、リワークに参加してもなお復職困難な者は多く、今後も取り組んでいくべき課題である。

一方、海外においてリワークが行われている国は僅かであり、欧米で利用されることが多いのはソーシャルファームである[3)]。ソーシャルファームとは私企業と NPO の中間に位置し、生産性を維持しつつ障害者等の就労困難者に就労の場を提供している企業である。一部の障害者等はソーシャルファームでの就労経験を経て一般企業での就業に成功している[4)]。

両者の大きな違いは、リワークではプログラムを与えられ利用する側にいるのに対し、ソーシャルファームでは労働者として生産する側にいるという点である。この違いから、ソーシャルファームにおいては、医療機関や健康保険等の社会資源を消費しないという社会レベルの有益性に加え、個人レベルにおいてもやりがいや達成感を得られるといった利点が期待できる。しかし、これまでソーシャルファームが復職に有用であるというエビデンスはない。

２．研究の目的

そこで新たな復職支援の方策とし、ソーシャルファームに着目し、その有用性を検討することにした。

実際にソーシャルファームに積極的に関わることにより、日本においてソーシャルファームはリワークプログラムと同等以上の効果が得られるかどうか、また日本においてソーシャルファームは持続可能性を持つか、を明らかにする。これは復職率だけでなく、社会的資源投入率や生産性などを検討することにより、明らかにするものである。

本研究は、従来のリワークプログラムでは踏み込むことが出来なかった「一般労働市場においてトレーニングを行う」という点において、本研究は最も大きな特色を持つと考えられる。本研究により、今後休職者の復職の際の選択肢として、リワークプログラム以外にソーシャルファームを選択することも可能となる。また、ソーシャルファームが全国に多くできることにより、社会的資源を消費することなく復職する休職者を多く輩出することができると考えている。

３．研究の方法

(1) 実態調査

①調査対象

日本国内外において現在行われているソーシャルファームあるいはそれに類似する活動を行っている企業に対し実態調査を行った。調査対象は国外２ヶ所、国内２ヶ所の企業を実施した。国外での調査対象はソーシャルファームが特に盛んな欧州での調査を実施した。

②調査内容

実地見学、運営者・労働者からの聞き取り調査を行った。具体的な内容としては、事業規模や事業内容、被雇用者の内訳（疾患名や障害者等の割合）、雇用状況、経営収支等の運営状況、ファームからの離職率や他企業への就職率等とした。

(2) 復職支援におけるソーシャルファームの有効性に関する調査

①調査対象施設の選定

平成２４年度に実態調査を行った国内の企業に、復職支援におけるソーシャルファームの有効性に関する調査の協力を依頼し、同意を得られた企業を調査対象とした。

②調査方法及び調査内容

調査対象は、調査対象施設における労働者等のうち本調査に同意の得られた者とした。すでに内諾を得ている対象施設は、従事者 8 名で定常運営をしている。

・調査実施時期は、ソーシャルファーム利用前に一度ベースラインデータを取得し、実施後 6 ヶ月後に追跡データを取得した。

・調査項目は「身体症状」「精神症状」「認知機能」などとした。

・身体症状および精神症状については、自記式の質問紙を配布し、調査を行った。認知機能については、Stroop Test, Trail-Making Test, 三宅式記銘力検査を行った。

・解析には SPSS 22 for Windows を用いた。

・これら調査に関しては、企業及び個人との間に、個人情報保護法案に基づく守秘義務契約を締結した上で、そのデータの取り扱いには十分な注意を払いながら実施した。

なお倫理的配慮については筑波大学の倫理委員会の承認を得た。

４．研究成果

（１）実態調査

①国内調査

日本型ソーシャルファームとして考えられる『ぬくもり福祉会 たんぽぽ』『共生シンフォニー がんばカンパニー』にて実態調査を行った。

たんぽぽでは、段階的に勤務時間・日数を増やしていく試みにより職場へ適応できるようにプログラムを行っていた。

がんばカンパニーにおけるトレーニング

では、就労前にトライワークという形で就労への適応をはかっていた。就労が難しい場合には、就労ではなく適切な支援が受けられるようにアドバイスを受けられる状況を整えていた。

現在の日本型ソーシャルファームでは、各施設において、必ずしも統一された方法ではなく、様々な方法で支援が行われていることが明らかとなった。

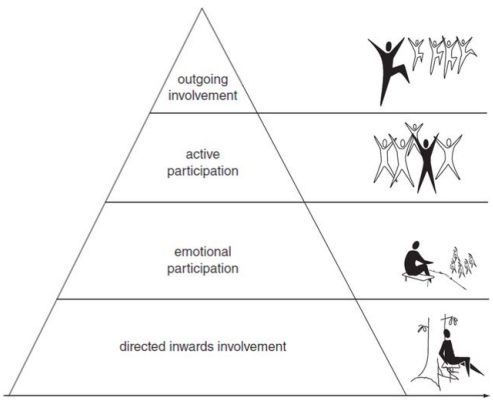
②海外調査

ノルウェーの『A2G』、スウェーデンの『Alnarp Rehabilitation Garden』にて実態調査を行った。

A2G では身体疾患、精神疾患問わず障害者を対象とした復職支援を行っているが、うつ病の傷病休暇中のリハビリテーションも行っており、概ね 70%が復職していた。基本は職業リハビリテーション施設であり、労働市場における就職支援が最終目標であるが、希望により職員として働くことが可能な場合がある。

Alnarp Rehabilitation Garden は既に Nature-based Rehabilitation という名前で園芸療法を活用したリハビリテーションを実施していた。

Nature-based Rehabilitation は the Scope of Meaning/Scope of Action Theory に基づいて行われていた。特筆すべきこととして、日本におけるリワーク等のリハビリとは異なり、The supportive environment theory における“directed inwards involvement”の段階が存在し[5]、自然の中においてただ一人で過ごす時間を大切にするといった早期介入を重視する点が認められた。



（文献 5 より引用）

（２）復職支援におけるソーシャルファームの有効性に関する調査

①質的調査

某日本型ソーシャルファームを利用している利用者を対象として、質的調査を実施した。調査のために、個別に半構造化面接を実施し、グラウンデッドセオリーアプローチ Strauss and Corbin 版により分析を実施した。

19 のカテゴリーが生成され、3 つのカテゴリーグループ「前職を退職するまでの心理的変化」「現職場における心理的変化」「現職場に来てから次の職場へと移行するための心理的変化」が生成された。

日本型ソーシャルファーム利用者の心理的な変化について初めて明らかにした。

②量的調査

某日本型ソーシャルファームを利用している利用者を対象として、縦断調査を実施した。復職支援において重要視されている復職準備性に特に着目し、抑うつ度、ストレス対処力、認知機能（CES-D、SOC、Stroop Test、Trail Making Test、三宅式記銘力検査）を縦断的に評価した。

平均調査期間は平均 222 日であり、復職準備性において、Stroop Test において有意な改善が認められた。

本研究では、日本型ソーシャルファーム利用者の復職準備性の一部についてはじめて明らかにした。

引用文献

1) 労働政策研究・研修機構，メンタルヘルスと企業パフォーマンス―65%の企業が生産性低下などとの関係を認識，2005.
2) 北川信樹，賀古勇輝，渡邉紀子ら.職場のメンタルヘルス最前線 うつ病患者の復職支援の取り組みとその有効性．心身医 2009;49:123-31.
3) 米澤旦著『労働統合型社会的企業の可能性』ミネルヴァ書房，2011.
4) 炭谷茂．国際セミナー報告書「各国のソーシャル・ファームに対する支援」，2007.
5) Anna Maria Palsdottir, et al. The Journey of Recovery and Empowerment Embraced by Nature -Clients' Perspectives on Nature-Based Rehabilitation in Relation to the Role of the natural Environment. International Journal of Environmental Research and Public Health 2014, 11(7), 7094-7115.

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　１　件）

①Yasuhito HIRAI, Naoki KOBAYASHI, Yuichi OI, Kazuya USAMI, Shinichiro SASAHARA, Ichiyo MATSUZAKI. Changes of Readiness to Return to Work of Users' in a Japanese Social Firm: a Longitudinal Study. Journal of Physical Fitness, Nutrition and Immunology, 査読有 Vol.24, No.1, 2014, pp.70-78,

〔学会発表〕（計　３　件）
①平井康仁 他、精神疾患に対して自然を活用したグリーン・リハビリテーションを実施している欧州の一施設調査および文献的考察.第 88 回日本産業衛生学会学術集会、グランフロント大阪、大阪府、2015.

②平井康仁 他、ソーシャルファーム利用者の特性に関する横断的研究.第 87 回日本産業衛生学会学術集会、岡山コンベンションセンター、岡山県、2014.

③平井康仁 他、ソーシャルファーム利用者を対象とした自己評価に対する質的研究.第 86 回日本産業衛生学会学術集会、ひめぎんホール、愛媛県、2013.

〔図書〕（計　０　件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　０　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　０　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
松崎一葉　（MATSUZAKI, Ichiyo）
筑波大学・医学医療系教授
研究者番号：10229453

(2)研究分担者
笹原信一朗（SASAHARA, Shinichiro）
筑波大学・医学医療系准教授
研究者番号：10375496

(3)連携研究者
宇佐見和哉（USAMI, Kazuya）
筑波大学・医学医療系助教
研究者番号：60708535

大井雄一（OI, Yuichi）
筑波大学・医学医療系助教
研究者番号：90516056

(4)連携協力者
平井　康仁（HIRAI, Yasuhito）